



～ 夢ひとすじに ～ 宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 26 年度 第 1 号
平成 26 年 4 月 8 日 (火) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>



「ABCD」の原則

校長 やました せいじ
山下 誠二

4月8日、やわらかな春の陽が降り注ぐ日に、多数のご来賓の皆様にご臨席を賜り、第68回の入学式を無事挙行できましたことに、まず御礼を申し上げます。平成26年度の宮原中学校は、337名の新入生を迎え、生徒数983名、教職員数65名で元気よくスタートいたしました。

さて、宮原中学校の校長となって3年目を迎えました。赴任以来、言い続けてきた目標があります。それは「元気に登校」「笑顔で下校」できる生徒になってほしいという強い願いです。また、行動目標として「さわやかなあいさつ」「校歌を大切にしっかり歌う」「靴のかかとをしっかりそろえる」ことは、今年度も引き続き取り組んでまいります。そして、この目標に素直に取り組んでいくために、始業式、入学式では、「ABCD」の原則を生徒に話しました。

A=当たり前のことを
B=バカにしないで
C=ちゃんとやれる人こそ
D=できる人



当たり前のことがしっかりできる人は、人から信頼をされます。人から頼りにされると、自分が伸びるための機会がドンドン増えてきます。これは学校だけではありません。大人の世界でも同じだと考えます。

ここで、関連する星野富弘さんの短い詩を紹介いたします。星野さんは、群馬県で体育の先生をしておられましたが、部活の指導中に頸髄（首）を痛め、それ以来、一生手足が動かない体になってしまいました。その後、自分の体の不自由と向き合いながら、口を使って筆で絵と詩を書く創作活動を始められました。今から紹介する詩は、「鈴の鳴る道」と題された本の中にあります。

「いのちが一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった。
いのちより大切なものがあると知った日、生きているのが嬉しかった。」

「いのちが一番大切」なのは当たり前です。それなのに、「いのちが一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった」というのはどういうことだろうと思ったかもしれません。では、ここで「いのち」の部分「自分」という言葉を置き変えてみたら・・・

「自分が一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった。
自分より大切なものがあると知った日、生きているのが嬉しかった。」

もうわかりますね。要するに、自分の利益ばかりを考えたり、勝手なわがままを通したり、他人のことを考えないで自分の欲望を満たそうとしている人の生き方は苦しくて、幸せにはなれません。しかし、自分よりも大切なもの、たとえば、家族の愛、友人との絆、周りの人々とのつながりなどのために自分を捧げる人は、本当の喜びを見つけて、幸せに生きられるという意味になります。

当たり前のことをバカにしないでちゃんとやれる人こそできる人、「ABCD」の原則を今年度は、いろんな場面で発信してまいります。よろしくお願いいたします。